



新着図書案内



2017年1月発行



『脳はなぜ都合よく記憶するのか』

脳は記憶の正確さを犠牲にしてでも、人が創造的に生きることを選んだ。脳が記憶を都合よく作り替えたり、あり得ないし体験もしていない出来事を知っているかのように記憶したりする不思議なメカニズムの存在理由を平易に語る。

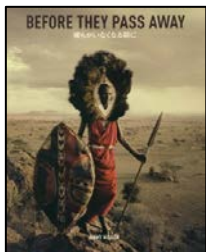
ジュリア ショウ // 著 講談社



『本を読む』

本ならなんでもいいから、読むだけで心の中から美しくなれるはずだ。だれも知らない心の中を、美しく装いたい。それは人に知られなくて、いいことなんだと悟りたい。画家であり、ひとりの本好きである著者による読書案内。

安野 光雅 // 著 山川出版社



『彼らがいなくなる前に』

部族の民が滅び去る前に、彼らの魂を記録する場所が必要だ。世界各地の少数民族を訪ね、彼らと生活をともにしながら、失われつつある民族の生活や文化を肖像として撮影した「美しい」少数民族写真集。

ジミー ネルソン // 写真 パイインターナショナル



『かわいい浮世絵』

思わず笑ってしまうユルい動物、あたたかく見守りたくなる子どもたち。さらには、おしゃれて洗練されたデザインやファッション…。さまざまな「かわいい」浮世絵を厳選して紹介する。

日野原 健司 // 著 東京美術



『芸術家の愛した家』

芸術家たちの家を見ることは、彼らの人柄に触れることであり、暮らしぶりを覗くことであり、当時の社会を知ることにつながる。ダリ、ミケランジェロ、ゴッホ…。17人のアーティストの私的空間から人生と名作を読み解く。

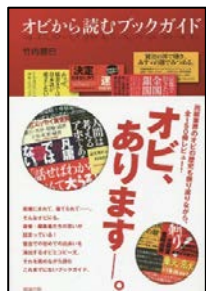
池上 英洋 // 著 エクスナレッジ



『貝と文明』

数千年にわたって貝は、宝飾品、貨幣、権力と戦争、食材など、さまざまなことに利用されてきた。古代から現代までの貝と人間とのかかわり、軟体動物の生物史、そして今、海の世界で起こっていることを鮮やかに描き出す。

ヘレン スケールズ // 著 築地書館



『オビから読むブックガイド』

邪魔にされて、捨てられて…。そんなオビにも、著者・編集者たちの思いが詰まっている！書店での初めての出会いを演出するオビとコピー文の魅力とともに、全150冊を紹介するブックガイド。

竹内 勝巳 // 著 勉誠出版



『世界の図書館』

書き記された文字を守りたい・接したいという衝動に应运ってきた図書館。地球上でもっとも豪華な図書館から、誉れ高き大学施設、革新的なデザインワークまで、25ヶ国・47館の図書館を、豊富なビジュアルで紹介する。

ビヤーネ ハマー // 編・著 ほるぷ出版

*掲載しているものは新着本の一部です。新着本は随時ホームページで公開していますので、そちらもご覧下さい。
*紹介文はTRCマークより引用。*書影は日外アソシエーツブックデータASPサービスを利用。または出版社より許諾を得ています。





『人工知能の作り方』

プレイヤーの心をとらえる魅力的なゲーム、より「らしい」キャラクターはどう生まれるのか。ゲーム業界を牽引するAI技術者が、ゲーム制作における人工知能の役割を最新テクノロジーをふまえて思索する。

三宅 陽一郎 // 著 技術評論社

『カフェインの真実』

コーヒー、茶、清涼飲料、エナジードリンク、サプリ…。多くの製品に含まれ、抜群の覚醒作用で人気のカフェイン。その効能や歴史から中毒や副作用などの危険な弊害まで、世界を虜にする〈薬物〉の魅力と正体を探る。

マリー カーペンター // 著 白揚社

『俗語発掘記消えたことば辞典』

明治から現在までに消えていった俗語ばかりを集め、辞典風に紹介。「流行語の発生と消滅」「若者語の変化」などの解説も収録する。明治以降のもうひとつの風俗史が強烈に浮かび上がる一冊。

米川 明彦 // 著 講談社

『日本の不思議な建物101』

中銀カプセルタワービル、江戸東京博物館、信濃町煉瓦館…。101の不思議な建築物を取り上げ、目に見える姿の背後にある意図や機能、在り方を紹介しながら、見る人にどうして不思議と思わせるのかを解き明かす。

加藤 純 // 文 傍島 利浩 // 写真 エクスナレッジ

『震度7の生存確率』

震度7を超える巨大地震では、これまで教わった地震対策や地震教育は通用しない。巨大地震の発災の瞬間を生き残り、発災直後からはじまる地獄を生き抜くために必要な知識を、実践に即して紹介する。

仲西 宏之 // 著 佐藤 和彦 // 著 幻冬舎

『50の事物で知る図説医学の歴史』

ヒポクラテスの木、ペスト医師のマスク、ラエネックの聴診器、バイエル社のアスピリン、MRIスキャナー…。50の事物を豊富な図版とともに概観、数千年にわたって発展してきた医学の歴史を明らかにする。

ギル ポール // 著 原書房

『図書館ねこベイカー&テイラー』

アメリカ西部の小さな公立図書館で飼われていた2匹の猫たち。2匹はやがて世界的なスターへと成長していき…。長年2匹の「お母さん役」を務めた司書が、彼らの思い出を綴る。全米各地で活躍する「図書館ねこ」たちも紹介。

ジャン ラウチ // 著 ライザ ログック // 著 早川書房

『ガレとラリックのジャポニスム』

フランスのガラス工芸の2大巨匠、エミール・ガレとルネ・ラリック。その多彩で美しい作品をはじめ、関連作品などをカラー写真で紹介し、作品にみられる日本の美意識とジャポニスムについて解説する。

山根 郁信 // 編 平凡社

『FLYDOGS』

全力でボールやフリスビーを追いかけ、池に飛び込み、柵を飛び越える。大きなマスティフ、小さなチワワ、黒いラブラドル・レトリバー、白いハバニーズ…。見ているだけで心が弾む、躍動感いっぱいのお犬たちの写真集。

トッド R.バーガー // 編 エクスナレッジ

『なつかしの昭和時代』

嫁入り風景、Xアベニュー、赤帽、輪タク、進駐軍、中央線沿線、神田・上野・浅草界限、裏街横丁物語、東北の冬景色と生活、日常断章…。なつかしの昭和時代を撮影したモノクロ写真を収録する。

鈴木 育男 // 写真・文 国書刊行会

*掲載しているものは新着本の一部です。新着本は随時ホームページで公開していますので、そちらもご覧下さい。
*紹介文はTRCマークより引用。*書影は日外アソシエーツブックデータASPサービスを利用。

